



酷暑の8月が過ぎ、9月に入りました。今月のかわら版は少し趣向を変えて、「涼しげ」ではありませんが、「心打たれる」話題提供から始めさせていただきます。

今年は12年に一度の兎年。小さいころからずっと疑問に思っていたのですが・・・

うさぎはなぜ月に住んでいるのですか？ 昔話に詳しい高橋敬明先生に尋ねてみました。



良寛和尚の「月の兎」の話です。今はむかし、あるところに猿と兎と狐と一緒に暮らそうと約束をして朝には野山で遊び、夕べには林に帰り、共に休んでいました。

このようにして月日が経ってゆきました。

このことを帝釈天がお聞きになって。それが本当のことであろうかと知りたく思われ、老人の姿になり三匹の処へよろめきながらたどり着き、そして言いました。「お前たちは三匹とも種類は違うのに同じ心で仲良く遊んでいると聞いている。それが本当にその通りであれば、どうか私の空腹をお前たちで救ってくれないか。」と言って、杖を置いて休んでいたところ、三匹は、「それはたやすいことです」と心安く引き受け、暫くして猿は後にある林から木の実を拾って戻ってきました。狐は前にある河原から魚をくわえて来て老人に与えたのです。



しかし兎は、あたりをしきりに飛び回って食べ物を探しましたが、何も手に入れることができないでそのまま帰ってきました。老人は、「猿や狐の心と違って、兎は私を思う心が無いのだろうか。」と悪く言いました。

この話は今の世までも長い間語り継がれ、「月の兎」と云われるのはこのような訳であったのです。この話を聞く「私（良寛）」も、衣の袖は涙で濡れてしまいました。勿体なくも兎が大切な自分の体を老人の食べ物としてささげたことは、今現在でも大変心惹かれることでもあります。わが身を捨てて老人を助けようとした兎の態度は究極の慈悲の姿であり、良寛が生涯をかけて達成しようとした菩薩業道精神を「月の兎」に見たのでありましょう。

これらは「兎の捨身伝説」としてインドの「ジャータカ」（大蔵経）「大唐西域記」「今昔物語」などに見られます。良寛はこれを単純な童話風の長歌に作り直したのです。

それを聞いて、かわいそうに兎は悲しんで、少し考えていました。そして猿と狐に言いました。

「お猿さん、すまないが柴を集めて来てください。」「狐さんはその柴に火をつけて燃やして下さい。」二匹は言われた通りに柴を集め火をつけてたき火をしました。

兎は老人に向かって「可哀そうなおじいさん、私はお猿さんのように木に登れません。そして狐さんのように川で泳ぐこともできません。ですからおじいさんにあげるものは何もないのです。けれど兎の肉はおいしいと言われていています。どうかせめて焼いた私の肉を食べてください。」と言って燃え上がる火の中に飛び込んで、見知らぬ老人に自分の肉を与えるため、焼け死んでしまいました。

老人は兎のこの姿を見ると心もしおれて天を仰いで涙を流し、土に倒れて泣きはらしていました。しばらくしてから老人は胸を叩いて三匹に言ったのは「お前たち三匹の友達誰も劣る者はいないけれど、その中で兎は特に心が優しい。」

帝釈天は兎の亡骸を胸に抱いて天に昇り、月の宮殿にほうむってやりました。猿と狐はその姿をいつまでも泣きながら見送っていました。



「道場自慢」シリーズ その1

道場には、その歴史の中で、その精神や指導理念が先輩から後輩へと脈々と引き継がれることにより、その道場ならではの伝統が培われて行きます。今回お訪ねしたのは、創立50年を超える大阪府下豊中市に道場を構える名門北辰館 千葉道場。館長の千葉利胤先生にご寄稿頂き、お話を伺いました。

1. 北辰館千葉道場(ほくしんかん ちばどうじょう)の歴史

当道場は日本古来からある、剣道を専門とする剣道場です。

先代館長 千葉治胤 (ちば はるとね) 大正 14 年生まれ、千葉家七代常胤の剣法、**北辰流三十六代当主**として生まれ、昭和 45 年 4 月に豊中市稲津町に剣道場を開設しました。

先代千葉治胤は 50 歳の時、広く世界に剣道の素晴らしさを知ってほしいと渡米し、17 年間に亘り、米国カリフォルニア州フレズノの日系アメリカ人フランク五石及びテキサス州ヒューストンのダレル・クレイグの協力を得て、**千葉道場米国支部を開設**しました。

昭和 45 年 11 月～昭和 60 年 12 月の間、北辰一刀流玄武館四世の小林定之が師範として在籍され、森地安雄教士七段、仲宗根幸男教士七段、恒久透教士七段、橋本和友錬士六段他多数の方々を指南されました。

昭和 57 年 1 月～令和の現在に至るまで、治胤の次男**千葉利胤(ちば としたね)**が館長を務めています。



2. 目的

幼少年から一般社会人を対象に、修養を目的とする剣道場です。

精神と身体を鍛錬し、日本人として誇れる文化を一人でも多く剣道を通じて、社会生活の向上を計る上で欠くことのできない「健やかな心」「健全な身体」「機敏な動作」「積極的な行動」「正しい姿勢」「正しい礼儀」など、これらを剣道を通じて学び、日常生活に活かすことを目的としています。

3. 道場訓

- 一、道場は技を学び心を練り 身体を鍛える場所である
- 二、剣道を学ぶものは常に心を正し服装を整え規律を重んじ礼儀を守ること
- 三、先生先輩を敬い その教えをよく守り又後輩を愛しよく導くこと

4. 入門のご案内

千葉道場は少年之部と一般之部に分かれており、老若男女を問わずどなたでも入門できます。初心者の方には基礎から親切丁寧に指導をいたします。

身体を鍛えたい、心を鍛えたい、強くなりたい、ストレス・運動不足を解消したいなど、入門される動機は様々ですが、千葉道場はその人の体力に応じた方法で稽古を重ねることにより智力、体力、気力を養えます。

メールその他お電話でも承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

「一般之部」

健康維持や運動不足の解消。何事にも負けない強い精神力。

「文武両道」を目指している中・高生や大人の方に！

見学・体験入門を随時受付けています。

お気軽に稽古日にお越しください。

対象/中学生・高校生・大学生・一般社会人

曜日/火・木・土

時間/20:00～21:00

入門料 5,000 円 月謝 3,000 円

「少年之部」

剣道を通じて心と身体を鍛え、心から気持ちのいい挨拶のできる子どもに！

見学・体験入門を随時受け付けています。

お気軽に稽古日にお越しください。

対象/幼稚園児・小学生・中学生

曜日/木・土

時間/18:00～19:30

入門料 5,000 円 月謝 3,000 円



「道場所在地」

〒561-0854 大阪府豊中市稲津町 1-4-6



(千葉利胤 北辰館 千葉道場)

◆千葉道場に関する情報は、下記のホームページを参照ください。

<http://www.chibadojo.com>

◆また入門に関し、ご質問がありましたら下記までご連絡下さい。

info@chibadojo.com / Tel.06-6863-5539

FAX : 06-4867-3366

『打ち切る』

今年5月の剣道八段審査で見事合格された佐野隆紀先生(大阪府警・第二機動隊)にお話を伺いました。

今年5月の剣道八段審査会(京都)で合格させていただきました。

これも偏に、これまでご指導を賜りました諸先生方、先輩、同輩、後輩、その他たくさんの方の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。



特別な稽古法は？行っていませんが

今回の審査にあたって特別な稽古法などは行っていませんが、毎朝、職場(第二機動隊)で7時半から隊員と20~30分の朝稽古と、土日のどちらかで同期との面技中心の基本稽古を行って来ました。

面技中心の基本稽古

基本稽古の中で二つのことを心がけて稽古に励みました。



まず一つ目は、打ち切ること

一本一本の打突に気力を充実させ、しっかりと打ち切る基本稽古を行いました。

「喉まで切り落とすような面打ちができれば、十分に地稽古に活かせる」と思い稽古に励みました。

二つ目は、打突までの「間」を意識した基本稽古

人により攻めや「間」、合気が違いますが、どんな人に対しても、蝕刃の間から「一歩攻める」そして交刃の間で「溜め」を作った状態で攻め合い(誘い、崩し)をし、打ち間に入ったら、「打ち切る」ということを意識しながらの基本稽古に努めました。

最後になりますが、

今回8回目の挑戦で合格させて頂きました。これまでに多くの諸先生方にご指導を頂き自分なりに今までの失敗を反省して、今回の審査に臨みました。改めて、基本稽古が大切だと実感しました。

合格させて頂いた事に感謝し、これからも感謝の気持ちを忘れず、謙虚に真摯に稽古に精進してまいります。

心こそ
心まよはず心なれ
心に心 心ゆるすな
不動智神妙碌より

『道歌を訪ねて』～シリーズ第九弾～

「道歌」は道の極意を簡潔に言い表し、七五調で覚えやすいところから「剣道道歌」をシリーズで取り上げて紹介しています。皆さんからの投稿をお待ちしています！

この歌は無心の大切さを説いている歌だと思います。私は稽古の度に心が揺れ動きます。身体力を抜き、心を「空っぽ」にし、無心の一本を求めて稽古していきたいと思います。

(三上 由美子 かわら版編集 WG)



第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会速報

チームワークの勝利～大阪府が準優勝！



令和5年7月9日(日)日本武道館で開催され、白熱した接戦を勝ち抜いた結果、大阪府が準優勝を果たしました。

試合結果 優勝 埼玉県
 二位 大阪府
 三位 東京都、群馬県

熱戦の詳細については、全剣連 HP、YouTube でご覧ください。

[The 15th All Japan Interprefecture Ladies KENDO championship | Flickr](#)



監督 石田真理子
 大将 川内 綾
 副将 近藤 恵子
 三将 辻 瑠子
 中堅 有本 奈未
 五将 北井 真結
 次鋒 寺本すずな
 先鋒 平瀬 瑠愛

＜監督からのコメント＞

コロナ禍を経て、チーム一丸となり決勝まで勝ち進むことができたことに連盟をはじめ、大阪府女性剣士皆様のご声援のおかげであると感謝致しております。ほぼ平常に戻り皆が喜び嬉しさをかみしめながら一戦一戦を戦い抜きました。大将川内選手を中心に優勝経験のある副將近藤選手（府警所属）が、強化稽古会の時から清明高校平瀬選手、中央大学寺本選手とのコミュニケーション（という名のポケとツッコミ）を密にしてくれたおかげで、二人は思い切りの良い試合ができたと思います。五将北井選手は府警の主将で要の選手、中堅有本選手（JP ロジスティクス所属）は今年の栃木国体準優勝の立役者、三将辻選手（府警所属）、現在育児に専念している中、ご家族のご理解を得て現役時代と遜色のない体力まで回復し、それぞれが大会に臨みました。初戦こそ快勝しましたが、それ以後の試合は接戦に次ぐ接戦で、誰一人欠けてもここまで来ることはできなかったと思います。全国的に女性剣士力が高まっておりどの都道府県が勝ち上がってもおかしくないくらいチーム力が拮抗しています。これに乗り遅れることないよう、大阪府においても女性が稽古等に参加のしやすい環境も整えていく必要があると実感しました。都道府県女子が開催されて15年、これまで出場されてきた全ての選手の皆さんの積み重ねで7年ぶりに表彰台へ上がることができました。常に勝つことは難しいですが、その年その年のチームの和を大切に同じ目標に向かって歩いていければと思います。みんな、良く頑張りました。（*^▽^*）